

普及項目	養殖
漁業種類等	養殖業
対象魚類	ノリ
対象海域	八代海

ノリ養殖指導

県南広域本部水産課・島田 小愛

【背景・目的・目標（指標）】

近年、八代海のノリ養殖は、秋芽生産期の高水温化、色落ちの早期発生、あかぐされ病の拡大等により、生産枚数及び生産金額は減少し続け、平成20年度(2008年度)には38あった経営体数が、現在は1経営体となっている。

水産課と熊本県漁業協同組合連合会では、八代海でのノリの安定生産を図るため、採苗指導や養殖状況調査を実施している。なお、ノリ養殖に係る課題を解決するため、今年度は生産者と定期的に情報共有する勉強会を2回実施することを目標とした。

【普及の内容・特徴】

（1）採苗指導・養殖状況調査

調査期間：令和3年(2021年)10月～令和4年(2022年)2月

調査地点：三角町漁協のノリ支柱漁場及び浮き流し漁場（図1）

調査内容：採苗直後の芽数把握や芽いたみ等の検鏡、水温、比重の漁場環境、ノリ葉長計測、病害の発生状況を調査し、とりまとめ後、情報提供及び養殖指導を行った。

（2）生産者との勉強会

開催月日：令和3年(2021年)10月13日、令和4年(2022年)2月9日

開催場所：三角町漁協（10月13日）、水産研究センター（2月9日）

開催内容：令和2年度(2020年度)漁期の調査結果と令和3年度(2021年度)漁期に向けた病害や色落ち対策等

【成果・活用】

今年度、10月下旬のノリの採苗はおおむね良好であった。しかし、11月から翌年2月にかけて、珪藻プランクトンの発生に起因する漁場の栄養塩の不足、葉体の形態異常、生長不良や重篤な色落ちにより、生産に結び付かないまま漁期が終了した。しかし、当初、計画していた養殖状況調査の情報提供や養殖指導は実施できた。

また、勉強会では、養殖の課題をリアルタイムに生産者や関係機関で共有でき、来年度漁期の生産に向けての対策等を話し合うことができた。

【達成度自己評価】

4 目標（指標）はほぼ達成できた（76～100%）

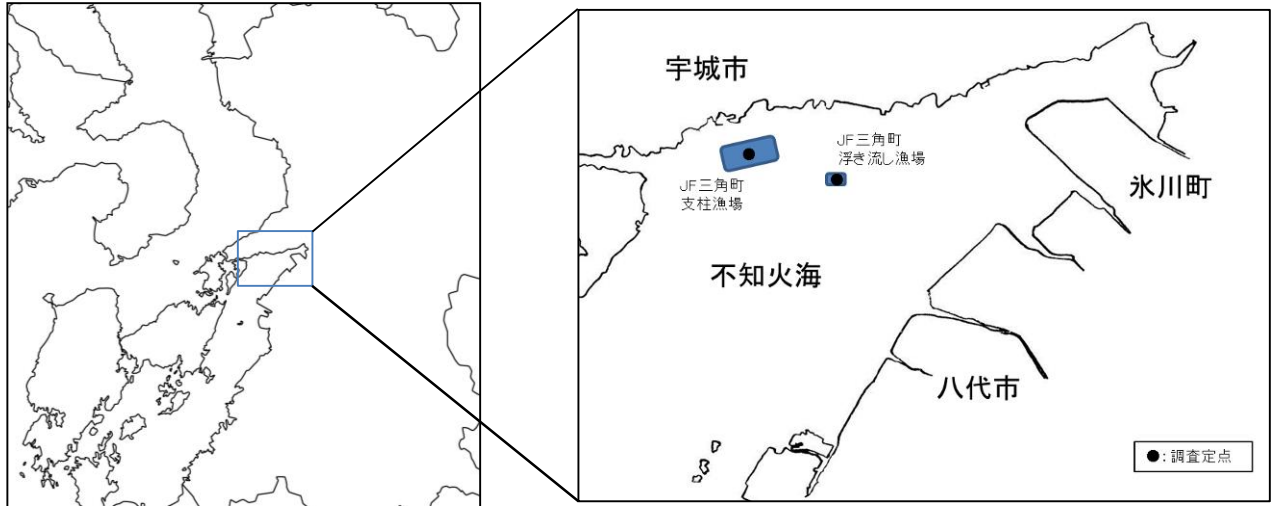


図1 養殖状況調査定点図



図2 養殖状況の確認

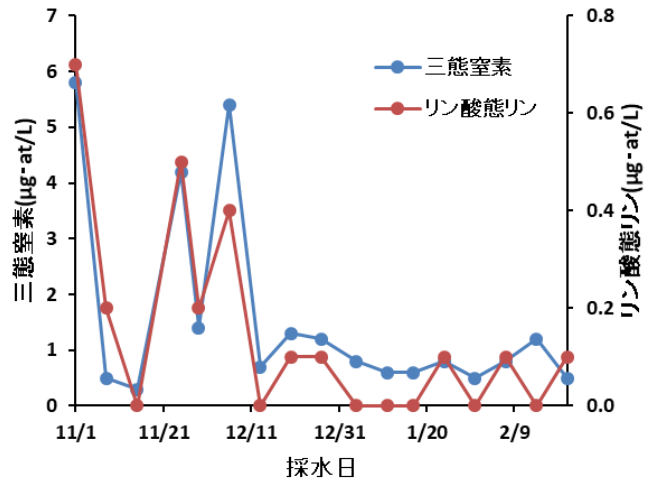


図3 栄養塩の推移
(水産研究センターノリ栄養塩情報より)

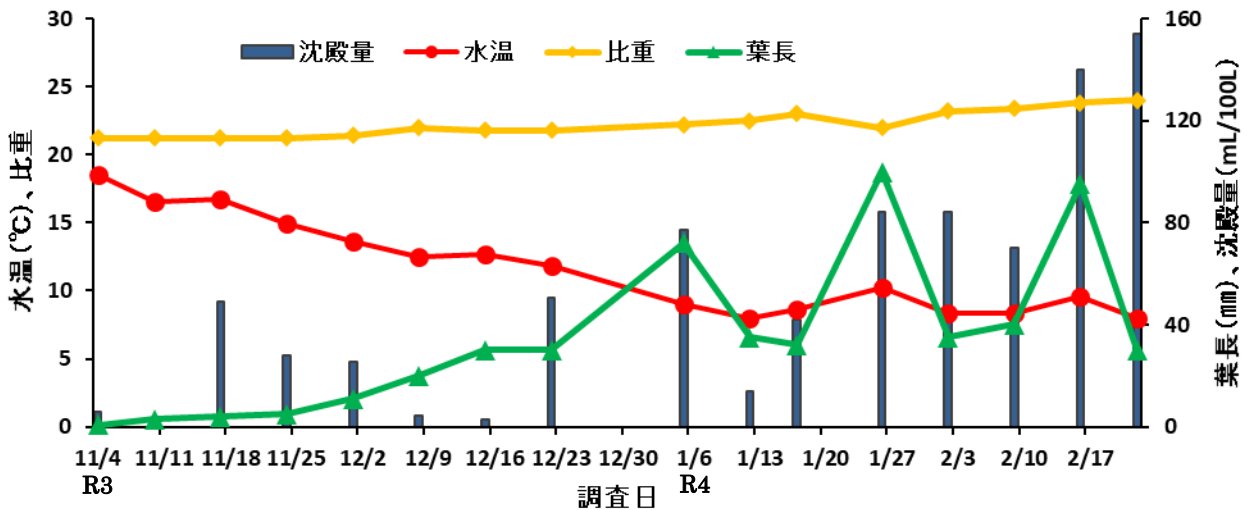


図4 養殖状況調査の結果 (とりまとめ)